

【委員13名】池田、玄野、大森、小竹、小松、小堀、新美、林、藤田、村井、谷内、吉岡、山岸(五十音順、敬称略)
【職員ワーキンググループ2名】古谷、池上
【ファシリテーター】森山奈美氏
【事務局6名】多田、中川、栗山、中谷、北、横浜
【欠席者】大島、絹川、中村、神谷

◇今回の会議で決定したこと

- ・ 絹川さんからの議題に対して出た意見をフィードバックする
- ・ 普段の生活の中からまちづくりのあるある(現状の問題点)を引き出し、今後どうするのがいいのか、どのような仕組みで解決できるかをイメージする

1. 開会

2. 前回会議の振り返り

【決定したこと】

- ・ 会議が月2回開催に決定。
- ・ 自助、共助、公助、互助について調べてくる。

【グループワーク「行政、議会の役割」】

- ・ 行政の役割は、調整役、市民の御用聞き、対話、役割を示す、情報共有と情報発信、市民が参加しやすくする、市民が交流しやすい場づくり、市民の暮らしを支える、市民が直接意見を言える場をつくる、市民にわかりやすい説明をする、積極的に周知する、市民に関心を持ってもらう工夫、わかりやすい仕組みづくり。
- ・ 議会の役割は、市民の意見を取りまとめ、行政のチェック、参加しやすい議会にする、資金調達などの後押し、議会として市民と関わる、説明責任、市民の意思を反映させる、行政の事業の評価に関わる、市民の代表であることを自覚する。

→前々回の議論を合わせて、まちづくりの登場人物である市民、行政、議会の役割を確認できた。

【第5回会議の振り返りシートから】

- ・ 行政と議会に関しての意見が出てわかりやすく、いい議論ができたという感想が多かった。条例ができそうな気持ちになってきたという嬉しい意見もあった。
- ・ 1グループ5~6人で3グループの方が話しやすいという意見から、行政グループ他、委員は3グループ。

- ・ 行政と対話、対等な情報共有の話
- ・ 地方自治法には住民の定義があるが、条例で市民という定義付けを行うことは法的に大丈夫なのか
→市民の定義付けをしている他の自治体もあるので、法的に抵触してはいないということか。
- ・ 互助の話については調べたことを共有したい。
- ・ 野々市らしさをもう少し盛り込みたい。
- ・ 宿題の負担が大きかった。
- ・ 今後の会議の日程を2~3ヶ月先まで教えてほしい
→4月からのスケジュールを押さえた。
- ・ 議員との話し合いがそろそろ必要。 条例の骨子案ができてから議会と調整する予定だが、少しずつ調整行ってもよいのではないか。
→議会との調整のタイミングは考える。

◇第6回振り返りシートより主な意見(●は後日意見)

【会議全体の感想/会議の進行について】

- ・ 毎回とても参加しやすい。楽しく参加できる。
- ・ 最後にまとまるのがなかなか面白い。
- ・ 森山さんの説明や進め方が分かりやすかった。
- ・ 話し合いの中で、自分の考えの範囲が狭いことをつくづく感じた。
- ・ 皆さんのご意見の底辺に同様だと思うことを感じた。
- ・ 会合に来られなくなった委員への配慮があった。
- ・ 今後も皆様の勢いと熱意を集めて条例にしたい。
- ・ スムーズに行った。回を重ねる毎、委員と仲良くなり各人が積極的に意見を出されていて勉強になった。
- ・ 月2回開催、これからは時間ができるので勉強をして委員会に臨みたい。
- ・ 多田課長様、中川様、ありがとうございました。
- ・ 多田課長さん、中川さん、横浜さんありがとうございました。感謝しています。

【ワールドカフェについて】

- ・ グループワークは楽しい。
- ・ 前回のグループワークのメンバーが多く、話しやすく慣れて来た。進め方も良くなっている。
- ・ グループワークは楽しく、話しやすい環境になってきた。まちづくりで大事なことは当たり前なことや基本的なことだと思う。しかしそれが難しくもある。
- ・ ワールドカフェ方式は色々な意見を聞けて良かった。

- ・ワールドカフェの進め方は話が広がりやすく良い。
- ・自主性、自発性について改めて考えると難しかったが大事なことだと思う。
- ・自主性、自発性のことを考えたことにより、頭の中の整理ができた。
- ・より具体的な話し合いで今後の目標も形作りつつあり、良かった。

【絹川委員からの意見について】

- ・絹川委員の意見、私も心打たれました。
- ・絹川委員の熱いメッセージで話し合いが進み、実りあるものになったと思う。
- ・絹川委員頑張って下さい。素晴らしい議題をありがとうございます。
- ・「自主性」「自発性」をもって…というテーマは少し議論に入りにくかった。絹川委員自身の言葉で説明してもらえたらよく理解できる。実際は無理なので絹川委員の意図を後ほど確認してはどうか。

【市の課題について】

- ・市の課題を理解できない(一人ひとりの課題が異なる)
- ・市との情報共有が必要である。
- ・自分がどの立場になるかによって見えてくる市の課題が異なることがわかった。

【町内会について】

- ・まちづくりは「町内会」を抜きに語る事はできない。
- ・町内会間、公民館の連携が必要。
- ・公民館は町内会費用と市助成金でまかなっている。
- ・公民館、小学校区が合致していない。
- ・町内会、自主防災、現町会の壮年団長の経験も少し発表できて良かった。
- ・町内会の各種団体が学校区や公民館で混ざり合って活動できると強みになるのでは。
- ・まちづくりには町内会活動が重要と感じました。
- ・話し合いの中で、町内会などが市民としての活動の第一歩という意見が多く、共感を持った。
- ・宿題に出たが、町内会などで市民、地域の課題をうまく吸い上げる仕組み化、市とのパイプを少ないながらも経験を生かし考えねばと思った。

●議会と市民、町内会(連合町内会)と市民との関係 【リーダーの育成】

- ・市の課題→地域の課題と捉えるなら、町内会の役割が大きな比率を占める。リーダー養成が今後の課題。
- ・まちづくりは、町内会リーダー養成が必要。(継続活動できる人を)
- ・リーダー育成に対して先輩が気を使う。
- ・青年、高齢者、女性をうまくまとめる体制が必要。
- ・市行政がもつ情報は秘があるのは当然だと思う。
- ・自主性、自発性を持ってもらうことに小さいところから町内会に参加してもらうこと、リーダーが必要。その後リーダーをどう育成するかが問題になった。
- ・まず町内活動に参加するきっかけをどう作るか。人を繋ぐ強いリーダーを育成していくことが大切。
- ・市を盛り上げることはリーダーの育成であることが大切であることを学んだ。

【自助、共助、公助、互助について】

- ・私も互助はお互いだと感じている。
- ・互助は共助の一部との考えは納得。
- ・社会的に必然なものだと思う。互助の精神が無くなれば味気のない社会になる。
- ・自主防災関係者としての自助、共助、公助の意味の感覚が強くなる。

【その他意見】

- まちづくりの多様な主体の位置づけ、関係性と役割
- 子供や、女性、町内会で描いている野々市の将来像
- 広報や新聞などで公開された情報を委員が知識として十分に把握しているのか。
- 条例は中学生が読んで理解できる表現にするための工夫をすべき。「むずかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深い事を面白く」

【絹川委員からの意見】

絹川委員から、野々市市の将来像についての話と、まちづくりに無関心な人が多く温度差を感じるという話、一番不安な話として、アパートに住む高齢者の孤独死の問題を取り上げていた。前々回の会議で、理想の野々市市民について議論した際、まちに関わる、行事に参加する、自分が野々市市民であることを自覚している

という意見が多かったが、本当に実現されているのか。

1) 人間として、日本人(国民)として、市民としての「基本的人権」と「責任と義務」

選挙の投票は義務か権利か責任か。市民は市長や議員を選んだり、市のことを決める際に義務か権利か責任かを果たすために一票を投じる。市民の責任と義務は、市のことを決めるためにあるのか。

2) 「私利益」と「公益」、「国益」の優先順序、またはバランスについて

氷見市の市民会館は、建設当時は耐震基準を満たしていたが、現在は基準を満たしていないという問題が分かった時点で市が情報を公表して市民に意見を問いかけ、議論した(情報共有)。自己責任だと言って建物を使用しても、地震が来たら責任は市役所、市長にあり、賠償金は市の税金が使われる。それでも施設を使うか。→自分の利益を追求すると施設を利用したい(私利益)、→皆の利益を考えて市長の立場で考えると、すぐに市民会館を閉めた方がいいのではないか(公益)。

私利益と公益のバランスは重要。

3) 国や県からおける補助金の受け入れと計画に対する市民の民意がわれたり異なった場合の調整や解決

例：災害対策の被災地での防潮堤の高さについての住民の民意が異なった場合/防潮堤を高くつくるより、高台への避難路の整備をした方がよいとの住民の意見と、行政計画との食い違いなど。

これは非常によくあること。市役所が計画を説明するとき、反対意見が出ることもある。例えば被災地で行われている防潮堤の議論や道路計画、市民会館の議論などと色々なところで考えられる。

4) 「自発性」をもって市民協働にあたるというのは言葉の響きとして良いが、実際に市民が「自主性」「自発性」をもって市の課題とかかわり合う為にはどのようなことが必要になるか?

絹川委員から皆さん宛のメッセージ。自主性と自発性をもって私たちが市の課題と関わるために何が必要かを話し合う時間を持つてはどうか。

3. 絹川委員からの意見をもとにワールドカフェ

1 人を残して残りの人は別のテーブルに行って席替えし、同じテーマで1ラウンド15分で何度か話し合いを行う方式で話し合う。模造紙の真ん中に、テーマである「市民が自主性、自発性をもって市の課題に関わり合うためには」と書く。誰がテーブルに残るか決めて、残る人から発言。発言していない人が、発言者の話を聞いて、その場で思った事や気づいた事、良い言葉だと思った事を模造紙に書き込む。3回目は全員が最初にいた席に戻り発表し、議論のポイントをまとめた。



■林グループ

- ・市の課題がわからない問題。一人ひとりの課題がそれぞれ違い、課題を解決するには一人の力では小さいので、グループで解決。
- ・情報収集を自発的に行うことが必要。例えばホームページをこまめにチェック、行政の出前講座に参加、行事に参加して名前を知ってもらうなど。
- ・町内会の話で町内会が出来た時は、似た年代が結束し目標に向かい頑張ってきたが、年を経ると目標が設定、結束ができずに町内活動がうまくいかない。
- ・互助の精神との関係性、高齢者の問題を若い人が自分のことのように思い、逆に高齢者が自分の昔のことを思い出して子供のことを考える。
- ・町内会を抜きにしてまちづくりはあり得ない。その際にリーダーの育成が重要。例えば会長の任期が終わっても継続的に町内会に参加できるシステムなど。
- ・青年や高齢者、女性などそれぞれの属性をグループ化するより、全体でまとまるように町内会の先輩が導いてくれば良くなるのではないかと。
- ・高齢者の方々は、色々な経験をして自分で学べと言うが、30代から40代の若い人は教えてほしいと思っている。あたたかい気持ちで教えて欲しい。若い人はほめるとやる気になる性質を利用すればいい。

■村井グループ

- ・市の課題に関わりあうためには、接点、場、きっかけを増やしていくことが必要。
- ・公民館や町内会や地区の活動の中で班長などの役割が与えられることで、まちや市に関わるようになる流れがあるのでは。
- ・町内会が重要で、活動するときには参加する人への配慮、リーダーの熱意、リーダーの育て方が課題。
- ・町内活動も大事だが、町内班の活動もあれば。
- ・公民館だけではなく公民館同士、地区同士など地域を隔てた活動があれば面白い。自分の周りだけでなく市全体、市の課題を考えることに結びつく。
- ・市の課題は、一般的に行政の課題と捉えられがちで市民はひいてしまう。市の課題は市民・地域の課題なので、町内や公民館など話しあう場が必要。

【森山コメント】

まちの人たちが抱えている課題は必ずしも行政の課題ではない。公民館同士、町内会同士という広域の話。



■多田グループ(行政チーム)

- ・課題を把握するための情報共有として、多くの人を話し合う場を集めることが大事。先日の講演会の松下先生の話で、住民票から参加者の無作為抽出で人を集める方法があったが、ただPRするだけでなく人を引きつける工夫が必要。
- ・人が集まる事で、隣近所の人や、初対面の人が話し、その場が楽しかったといえるようにすれば良い。
- ・熱意、誠意、責任感のあるリーダーが必要で、リーダーを育てなければならない。
- ・多くの人の中に、同じ志を持った人が小さなグループを作り、一つの課題をじっくり話し合うことが必要。自分に身近な地域の課題から実感できることについて考え、話し合いで解決法を決める。
- ・楽しかったということが一番大事。

【森山コメント】

楽しかったという話が出たが、まちの課題をなるべく自分の課題として考えるように場を作るということ。

■小堀グループ

- ・前々回の会議で理想の野々市市民について考えた際、自主性や自発性をもって何かを行うという話をしたが、自主性や自発性を持った人を育てるのが大事。そのために行事に参加して顔や名前を覚えてもらう。
- ・総会を開催する際、皆に出席するように班長に呼びかけてもらい、気軽に参加できるように工夫した。
- ・放っておいても自主性、自発性をもった人が育つわけではなく、町内会であれば班長や三役を、しっかりと熱意と誠意と責任感と積極性をもった人に教育し、いずれは町会長に育てる。
- ・福祉大会に出たときに、独居老人、孤独死の問題などが自主防災に関係する話が多かったので、町会でも自主防災は行っているが、市でも各団体と連携をとって欲しいと発言した。市の自主防災は立ち上がったばかりで、ここ1年で研修会を行っている。
- ・防災を含め、婦人会や連合会など各種団体が同じ方向を向いて、リーダーは野々市市がどうあるべきかという考えをもった人が務める必要がある。
- ・各団体のリーダーが、町会の方と協力し、皆をまとめて、楽しい行事を企画して、皆に参加してもらい楽しんでもらうという小さなサイクルがたくさん集まって、大きな循環になる。

【森山コメント】

これまで、リーダーや人材育成の話があまり出ていなかったが、6回目にして出てきた。

■地域団体の現状確認

- ・それぞれの町に町内会、公民館、青年団、壮年団、老人会がある。各町内会に加入していない人もいる。
- ・各女連は町内会の女性会とは別で3町内会程度加入、上の名前は女性協議会。県は女性協議会。
- ・公民館は市と地域の町内会からの助成金で運営。公民館長は教育委員会。事務方の主事、公民館下の町会長や、サポートを行う事業推進員などが運営。各

地区の中の公民館活動を行う一般公民館は4つ、その上に中央公民館がある。

- ・都市圏の学校区は、小学校が5校、中学校が2校。公民館の校区⇔小学校の校区もしくは分割。

例：丸木町内会、押野町内会→押野地区公民館

→**館野小学校**←本町地区公民館（若松町内会など関連する町内会を含む）

公民館とは違う小学校になることもある。

- ・それぞれにPTA、市P連（市PTA連合会）。県立高校も連携。（野々市明倫高校）
- ・JC（青年会議所）は商工会議所に加盟者がいるかもしれないが、表立った活動はしていない。ライオンズクラブやロータリークラブも同じ。

■まとめ

- ・リーダーを育てる、何かを行うときの地域団体は支援組織、商工会や女性会やPTA、フリーのNPO。これらを含めて市民。その人たちが、自主性と自発性をもってまちの課題に関わる際の手順は何か。
- ・リーダーを養成するとき、現場で何が起きているか、どうしたら解決できるのかをイメージしたい。
- ・条例を作るにあたり、市民が課題に取り組むための役割分担、行政と話し合いをするときの手順は何か。

【まちづくりにおける具体例】

- ・町内会や公民館やPTAには集まる理由や結成した理由がある。メンバーが入れ替わったり、マンネリ化が続くことのほか、組織を作った時の目的や機能が果たせていない場合もある。
- ・次の担い手がおらず町会長をずっと同じ人が務める。→役員はたいてい輪番で強制的に選ぶ。リーダーとなるかはその人がリーダーになろうとするかどうか。
- ・行政と一緒に仕事をする際に言いたい事を行政が理解してくれずうまくいかなかった
- ・現状のやり方が本当にいいのかという問題。例えば七尾市では、人が集まらないので婦人会を廃止しNPOにして自由参加にし、町内を超えて共感した人が加入できるようにした町がある。
- ・市内の女性協議会は、個人参加と町内会団体で参加するやり方がある。町内会で婦人会はあるが、上位団体である女性協議会へは参加しないことが多い。
- ・市役所は積極的に情報収集をして、情報を知ってい

ても表に出さない方が良いという判断をしていることもあるのではないかと。

→施設の耐震で、全国的にIs値が非公開になっている施設も多い。氷見市は建物が危険だと情報公開したので議論噴出。情報を公開するとそれなりに問題もある。情報を非公開のまま新しく建てるものもある。隠していたと知ると行政を信じられなくなるが、嘘偽りなく情報公開した上で議論の方が民主主義的。

このような話を普段の生活の中から引き出し、今後どうするのがいいのかを話したい。市には多様な課題があり、皆さんの身近にも課題があり、行政との情報共有がされているかと言われればそうでないかもしれない。それをどうしたら作れるか。

「あるある」という視点でまちの現状（問題点）を洗い出し、どういう仕組みで解決できるかを条例にしていけばイメージしやすい。

まちづくりあるあるから、そうならないためにこうすべきという話をしたいので、イメージしてきて欲しい。絹川委員にはここまでの議論をフィードバック。

4. 自助、共助、公助、互助について

社会福祉活動系の言葉。内閣府から出ている高齢者社会対策の基本的あり方に関する資料、社会保障制度改革推進法（平成24年）にも定めているので以下抜粋。

【自助】

「自ら働いて、又は自らの年金収入等により、自らの生活を支え、自らの健康は自ら維持」
家庭の内部に入ること。

【互助】

「インフォーマルな相互扶助。例えば、近隣の助け合いやボランティア等」

お互い様というところでは共助と同じ。より個人的。隣近所など。互助隊。近くの人を助けたり、自分が若いうちにボランティアをして年を取ったら世話をしてもらおうというお互い様の精神。共助に含まれる？

【共助】

「社会保険のような制度化された相互扶助」

互いに五分五分で行う、社会的にシステム化。
困っている人たちのための見守り隊など

【公助】

「自助・互助・共助では対応できない困窮等の状況に対し、所得や生活水準・家庭状況等の受給要件を定めた上で必要な生活保障を行う社会福祉」

行政による支援、公的サービス。社会の枠組みの中で助け合う。

- ・若年で高齢の母親の世話をするのは大変。高齢で結婚し、子供が小さく生活にお金がかかる上に世話をしなければならない。昔は早く結婚し親世代も若く元気だった。
- ・母親の世話をしていたときに妻が大変な思いをした。女性も自立して仕事をしているので、お金使っても施設や病院で面倒を見てもらった方が良いが、お互い様の精神で世話をした。自助や互助で高齢者の世話をすることは女性の立場、特に嫁という立場では堪え難い。実際に妻がいびられてみじめな思いをした。お互い様という精神は悪くないが、人を傷つけることはあってはいけない。
- ・互助と共助の使い分けが必要であれば検討。他の自治体の条例では互助という言葉が使われていても定義づけをしているものはない。
- ・互助が協働の指針には入っていないが、どうするか。
- ・互助の意味も含めて共助と定義するのもあり。

5. 事務連絡

■スケジュールについて

別紙参照

■議事録について

事務局として議事録を作成するが、会議録を2種類読むのが大変なので要旨だけで良いか、会議録と要旨の両方を読む方が理解しやすいか。

- ・この会議はオープンな場なので、どのような議論がされているかの会議録をホームページで公開する。
- ・議論に参加した人は要旨だけで頭に入るが、どう言う言い回しをされたか確認の必要がある時は議事録。

【振り返りシートから】

- ・議事録は要約版と本議事録ともに必ず頂きたい。
- ・議事録はこれまで通り2部お願いします。
- ・議事録は要約のみで良いと思います。
- ・議事録は簡略版でOKです。
- ・2種類読むのが大変、フルバージョンは要りません。
- ・議事録1枚でOKです。
- ・議事録は要約版のみで良い。
- ・要約版のみ配布してもらえれば良いです。
- ・議事録配布は要約でOKです。
- ・議事録はまとめだけでOKです。

6. 閉会

■藤田会長より挨拶

本日も大変貴重な時間で、絹川委員からの意見で議論を行ったが、本質的には間違いがなかったと思う。今回は年度末で、多田課長が退職になり、中川事務担当は市役所内の別の部署に異動になるので二人から言葉をいただき、拍手をして送りたい。どちらもたまに会議に寄っていただき、今後も条例に関わって頂ければと思う。表の通り大変ハードな日程だが、今後も皆さんのお力を借りて条例をまとめたい。

■多田課長より挨拶

私は金沢の人間だが、野々市のボランティアサークルなどに参加して市民として関わっていききたいと思う。条例ができるのを楽しみに関わっていききたい。栗山、中谷、北が中川の後継として次年度も事務局を担う。横浜も異動となる。

■事務局中川より挨拶

昨年11月からこの委員会を立ち上げてやってきたが、当初はこの委員会がどのような状況になるか、2回目以降も皆さんが参加してくれるか不安だった。振り返りシートには委員会が楽しいという意見や、自発的に月2回会議に参加したいという意見が寄せられ、事務局として嬉しく思う。次年度の秋口に条例策定を目指してこのまま務めると思っていたが、志半ばで異動辞令が出て異動になり、違う形で携わる形になるが、市役所内にいるので声をかけて欲しい。